

第1回事業説明会開催！



鞍馬小学校をお借りして開催しました。

秋が深まりつつある9月21日、前回の『かわら版』でお知らせしました、第1回二ノ瀬バイパス事業説明会が、鞍馬小学校体育館にて開催されました。

京都市と「野中、二ノ瀬、鞍馬バイパス検討委員会」の藤谷委員の挨拶の後、主に私たち事業者

が推奨する二ノ瀬バイパスルートを選定理由について、パワーポイントを用いて説明させていただき、質疑応答を行いました。今後は、皆様からのご意見を参考にしながら、今回お示ししたルートを基本として道路予備設計を行うと同時に、測量、弾性波探査、ボーリング調査、及び、水文調査等を進めていきたいと考えております。

お越しくくださった皆様には、平日夜間のお疲れのところ、貴重なご意見を頂きましたことを大変感謝しております。ありがとうございました！

二ノ瀬バイパス

かわら版

其の二



本説明会の内容

- 説明会の主旨
- 事業の経緯「野中、二ノ瀬、鞍馬バイパス検討委員会」
- 二ノ瀬地域の現状と整備手法及び整備効果
- 二ノ瀬バイパスのルート選定
- 事業者推奨ルートについて
- 平成17年度実施の閉否
- 平成18年度調査予定、事業完了までのスケジュール
- 「鞍馬北工区」道路改良事業の紹介とご協力の依頼

説明会資料より

ルート選定にあたって重視したこと



説明会資料より

説明会の主旨と内容

今回の事業説明会は、私たち事業を行う側である京都市と地域の皆様とが、お互いの情報や考え方を出し合って、二ノ瀬バイパスをより良くすることを目標としています。

事業のこれまでの経緯から、3バイパスの整備順序（二ノ瀬 鞍馬 野中の順）、今後の調査予定など、第1回目ということもあり多岐にわたる内容になってしまいましたが、最もお伝えしたかったのは、事業者が推奨する二ノ瀬バイパスのルートの選定過程と、その理由についてです。

今回お示ししたルートは、防災機能強化、道路の機能分化（観光・通過交通と生活交通の分離）、観光促進（貴船・鞍馬方面へのアクセス性）を図りつつ、周辺の自然景観の保全と、自然改変の最小化を目指しています。

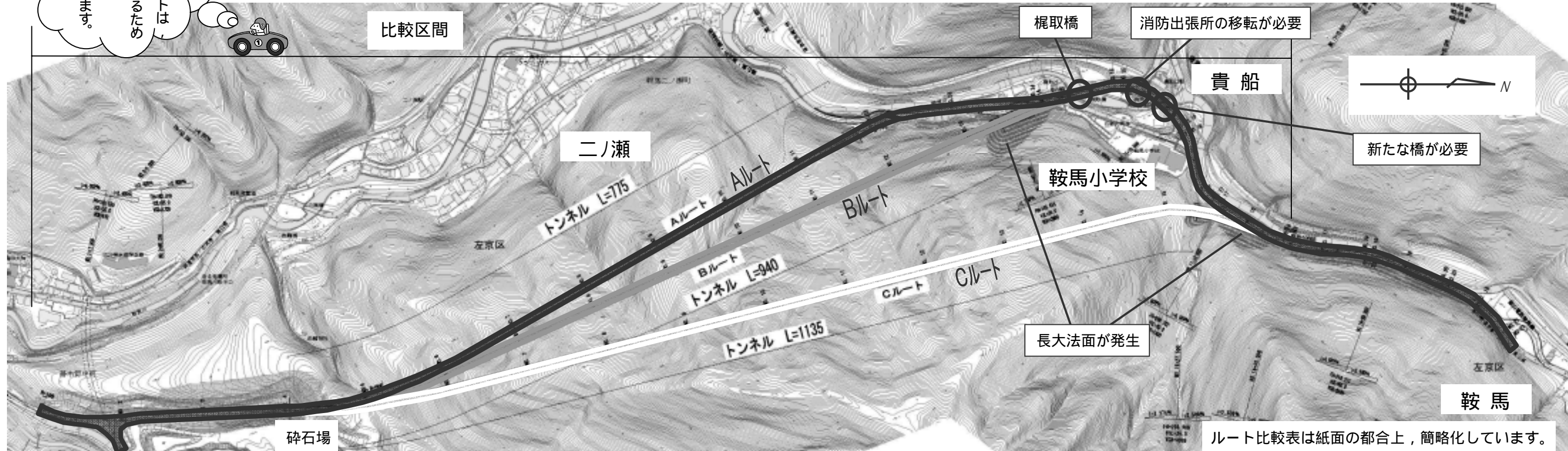
次面では、私たちが推奨するルートを説明致します！

事業者推奨ルート

比較3ルートの南側は、共通で碎石場の西端を取り付け位置としています。また、A、Bルートは、トンネルを北側に抜けた後は小学校前の現道路を利用せず、梶取橋と新たに造る橋を渡り現鞍馬街道に戻ります。これにより、消防出張所の移転が必要になりますが、定められた道路構造の基準を守り、小学校、梶取橋の大規模改修が避けられます。

図中のルートは、見やすくするため幅を広めに表示しています。

- Aルート**：貴船方面へのアクセス性が良く、トンネル北側は坑口を設けるのに適した地形の形状をしています。
- Bルート**：貴船へのアクセス性に優れ、トンネル北側坑口から続く道路の線形が優れていますが、それと引換えに北側坑口での自然改変が大きくなるルートです。
- Cルート**：小学校や、消防出張所及び、民家を避けることができますが、トンネルが長くなることで事業費がかさみ、貴船へのアクセスにも問題があります。



ルート比較表は紙面の都合上、簡略化しています。

ルート比較表	Aルート	Bルート	Cルート	備考
延長, ()内はトンネル延長	1,810m (775m)	1,800m (940m)	1,660m (1,135m)	Aルートは最もトンネル延長が短い。
事業費				Aルートは最も事業費を低く抑えられる。
走行安全性				各ルートとも北側坑口と現道路の交差点が近く、検討を要する。
坑口付近の構造				Aルートの北側坑口は、地形に対してほぼ垂直に設けられ、望ましい。
景観への影響				B, Cルートは、北側坑口付近に長大法面が発生し、自然改変が多い。
民家等への影響				Cルートは民家、消防出張所が避けられ、望ましい。
貴船方面へのアクセス			×	Cルートは貴船へ向かうためにUターンが必要になる。
評価	○	△	×	Aルートが推奨ルートです!
	貴船方面へのアクセス性、地形改変の少なさ(景観性、法面安全性)、経済性に優れたAルートが望ましい。			

歩道の必要性について

事業説明会では、新しいバイパスには、一部を除き歩道は必要ないと説明させていただきました。その理由として二つ挙げさせていただきます。

一つめは、日常の歩道利用者がほとんど見込めないことがあります。H17道路交通センサス(交通量調査)では、平日1日の歩行者数が6人となっています。この数字は極端としましても、歩道を設置しようとする1日に数百人は見込めないという客観的に歩道は必要ないということになります。また、鞍馬小学校に通学する児童についても、防犯上の理由から歩道は利用しないだろうとの意見をうかがっています(現在、ほぼ全児童が電車通学です)。二つめは、山と谷に囲まれた狭隘な地形上、貴重な平地をできる限り残したいという思いがあります。歩道を設置しないことによって、山の斜面の切る量を減らすことができ、道路に必要な土地をお持ちの方に分けていただく面積を少なくすることができます。

私たちは、以上二つの理由から、一般的な段差のある歩道は設置せず、白線で区切られた路側帯を少し広めに確保したいと考えています。



説明会での 質疑応答

皆さん全体としては、おおむねAルートに賛成との印象でしたが、新しいバイパスが鞍馬小学校前の現道路を通らないことと、段差のある歩道を設置しないことについて、ご意見・ご質問が集まりました。

Q1. 『水文調査で影響が出ると分かった場合の対策は？』

A1. 今後、井戸の利用調査等を行って、具体的にはこれから検討します。

Q2. 『長年鞍馬に住んでいる者としては、一旦梶取橋を渡る迂回ルートとなることは気持ちの上で納得できない。』

A2. 小学校前の現道路は、幅員が狭く、S字カーブがきついため、道路構造の基準を守るためには、梶取橋と鞍馬小学校の大規模改修と、新たな橋が2つ必要になります。今回お示したルートは、それらを避けるために梶取橋を渡る迂回ルートとしています。ただし、この説明会がルートの最終決定ではありませんので、今後も引き続き協議をさせていただきます。

Q3. 『では、小学校前の現道路はどのような道・道幅になりますか？』

A3. 基本的に現状のままですが、地域特性や使われ方に配慮し、道路のあり方を考えていきたい。

Q4. 『世帯数が少ないので、民家の立退きだけは絶対に避けてほしい。』

A4. 道路の幅が確定していないので踏み込んだお話はできませんが、少し土地を分けていただくという形で済むよう検討しています。そのためにも歩道は設置しない方向で考えていきたい。

Q5. 『トンネルにも歩道は設置しないのか？』

A5. トンネルは通過交通と観光目的のクルマが対象ですので、歩道は必要ないと考えております。

Q6. 『鞍馬バイパスはどのようなルートになりますか？』

A6. 現時点で鞍馬バイパスのルートや取り付け位置は決まっておりません。

ご意見、ご質問はこちらまで

『二ノ瀬バイパスかわら版』（其の二）では、事業説明会にお越しになれなかった皆様に説明会の内容をお知らせいたしました。ご意見、ご質問は下記までお寄せください！

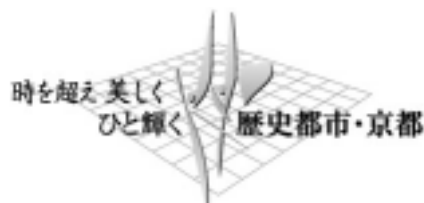
ご意見、ご質問のお寄せ先

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488 番地

京都市建設局道路部道路建設課

工事第一係 岸本，清水

電話番号：075-222-3580 FAX：075-213-0241



京都市建設局道路部道路建設課

ホームページ：<http://www.city.kyoto.jp/kensetu/douken/index.html>

同じです あなたとわたしの 大切さ

平成18年11月 京都市印刷物第184331号